

## 令和5年度第3回石狩市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時 令和5年10月20日（金）13時30分～14時30分

場所 石狩市総合保健福祉センターりんくる2階 交流活動室

出席者 小島郁也会長、岸邦宏副会長、佐々木宏嘉委員、熊谷貞治委員、竹内努委員、菅田昇幸委員、山下光弘委員、平井克典委員、小島義広委員、桑山渉委員、河合保郎委員、高眞一委員、池田委員、久保田貴浩委員、經亀真利委員、児玉成治委員、岩佐英世委員、岡田勝博委員、柴田肇委員、小山玲子委員、早川真樹委員、佐藤彰也氏（北海道運輸局：臨時出席）

事務局 企画課交通担当課長 上窪健一、企画課交通担当主査 江島紀和  
中央コンサルタンツ株式会社 堀主査

傍聴者 0名

次第

1. 開会

2. 議題

(1) (仮称) シン・公共交通計画（石狩モビリティ2030）について

(2) オンデマンド交通実証運行について

(3) 中央バス路線について

3. その他

4. 閉会

===== 審議内容の記録（審議経過、質疑、意見等） =====

※ 以下の質疑・意見については、○は委員発言要旨、●は事務局発言要旨

1. 開会

2. 議題

(1) (仮称) シン・公共交通計画（石狩モビリティ2030）について（※事務局より説明）

● (仮称) シン・公共交通計画（石狩モビリティ2030）について<資料1>

【質疑・意見】

○運転免許証の返還も含め、今後高齢者の割合が増えていく。今の高齢者にはスマホは難しいのではないかと。電話等の予約方法も残していった方が良いと思う。

○新聞報道等により、世の中が勝手に新幹線の開線が遅れるという流れになっている。新しい交通計画は、オリンピックに間に合わせなければいけない物でもなく、7年で良いのではないかと。2030年までに、新幹線やオリンピックとは関係なく、石狩市でやっておかなければならない事があるのではないかと。思うことから、交通計画の基幹については10年等に伸ばす必要はないと思う。

○公共交通の定義として、タクシーは立派な公共交通であることから、タクシーが行ける場所は「公共交通空白地」ではなく、「バス交通空白地」と呼ぶべき。そのように定義しなおすことを提案する。

●期間が長ければ長いほど、計画が時代にそぐわなくなっていくことから、概ね5年間という目安はあるが、北海道が2030年に向けて動いていくことから、現段階では2030年までの7年間の期間ということで進めさせていただければと考える。また、タクシーが行ける場所は「バス交通空白地」として進めていきたいと考える。

(2) オンデマンド交通実証運行について（※事務局より説明）

●オンデマンド交通実証運行について<資料2>

【質疑・意見】

○これまで1ヶ月半くらいの期間について、どのような評価をしているか。

●通勤オンデマンドについては、昨年度555人の実績に対し、すでに600人を超える利用となっており、一定の評価をしているところ。これからも利用者を増やすべく各地区において説明会を実施するとともに、民生委員の役員会等においても説明をさせていただいている。

○通勤オンデマンドについて、もう少し利用が伸びても良いと考えるが、更なる周知活動について、どういったことを考えているか

●企業様の通勤時間のタイミング等によりマッチングできずに乗れていない企業様もいる。車がさらに導入されれば、乗車可能な企業も増えると想定。今後についても石狩湾新港団地連絡協議会と連携しながら周知活動に努めていく。

○資料の中でデータの読み方がわからないものがある。

●実証運行ということから、試験的なデータも含んでしまっており、分かりづらい点については申し訳なく思う。

○説明会等において、「こうであったら利用しやすい」等の意見の吸い上げはしているのか。

●通勤オンデマンドについて、適宜利用者と会話をしている。使っていない方の理由として、「使いたいが、希望時間帯が合わない」「運賃について抵抗がある」という意見はいただいているところ。1度利用していただくとリピート率が高いことから、現在の運賃で実証運行を進め、これからも利用者の意向を捉えていきたい。市内オンデマンドについては、カスタマーセンターを通じて予約可能であるものの、アプリの利用が増えてきている。要望としては花川樽川地域内で移動したいとの声が多い。情報の吸い上げについては、アプリ内のアンケート機能を活用しているほか、カスタマーセンターにもご要望を寄せていただいている。次回の協議会にて、具体的な内容について共有させていただく。

○資料中のデータが分かりずらいため、再度判り易い資料をいただきたい。

●再度資料のデータを整理し、今後皆様にお示ししたく思う。

(3) 中央バス路線について（※熊谷委員より説明）

○中央バス路線について<資料3>

【質疑・意見】

●廃線に係る乗客数のデータはありますか。

○先々月に1週間調査したデータでは「石狩新港線」は0人、「新港団地線」は1便平均で10名程度、「新港西線」は20名～25名の利用があった。

○退職する人は、突然退職するのか。又は例えば3ヶ月後に退職したいとなるのか。

○ほぼ2ヶ月位前に転職したい旨を告げられる。たいてい年休が30日から40日残っているので、年休を消化してから退職するパターンがほとんど。なので、明日から来ないという話ではない。

○これから冬のボーナスの時期だが、もらったら退職するパターンはあるか。

○昨年は特に冬のボーナスをもらってから退職する職員が多かった。

○中央バスの3路線を、「いつモ」に全て転換することは難しいのではないか。専門部会でこれからの話は進めていくべきではないか。

令和5年度第3回石狩市地域公共交通活性化協議会（R5.10.20）

●今後、部会の開催も検討していきたいと考えている。

3. その他

○10年後20年後のドライバー不足についての国の方策について、岸先生が何かご存じであれば教えていただきたい。

○「輸送資源の総動員」ですが、これは「最後は住民同士助け合いまじょう」ということであり、それを解決策と呼ぶのはいかがかと思う。現在、賃金への補助については、国・自治体でもできない内容であり、難しい状況であると考えている。

4. 閉会

令和5年11月20日 議事録確定

石狩市地域公共交通活性化協議会

会長 小島 郁也